

1月15日 第一生命財団助成対象施設に坂田こども園が選出

公私連携幼保連携型認定こども園 坂田こども園が、第一生命財団の「子どもの未来を応援する保育所等助成事業」に選ばれたことをうけ、第一生命保険那覇支社の河野秀典支社長が同園を訪れ、贈呈式が行われました。

本事業の助成金で購入した新しいトランポリンや積み木で園児たちが元気に遊ぶ中、河野支社長から同こども園を運営する学校法人大庭学園大庭荒理事長へ目録が手渡されました。



1月16日 祝・100歳! 現役農家に特別表彰

令和8年2月で100歳を迎える與那嶺安正さん(幸地在住)が、今も現役で畜産業に励んでいる功績が認められ、南部家畜市場(糸満市)で行われた肉用牛初競りにおいて、同市場運営委員会から「永年功労賞」の特別表彰を受けました。100歳の現役畜産農家が表彰されるのは同市場で初の快挙となります。

70年以上畜産業に携わってこられた與那嶺さんは「仕事が健康の秘訣。何より仕事が楽しいから畜産業を長年続けられた。素晴らしい賞をいただき、今後も現役として頑張りたい」と喜びを語りました。



1月17日 第3回西原町障がい福祉フェスティバル

西原町障がい福祉フェスティバル実行委員会主催による第3回西原町障がい福祉フェスティバルが、さわふじマルシェで開催されました。

当日は多くの来場者が訪れ、児童デイのこどもたちが頑張って練習を重ね披露してくれたダンスや合奏、その他協力いただいたバンド、手話ダンスサークル、かりゆし太鼓のステージを楽しみ大盛況でした。

出店ブースではフランクフルトやうどん、サーターアンドギー、お味噌汁やお弁当、ポップコーン等、昨年より多くのフードが提供され、来場者はおいしそうに食べていました。また小物や雑貨類、花の苗の販売も大変人気で売り切れ続出となっていました。



かりゆし太鼓▶

1月21日 日本代表GK榎田選手によるGK講座

西原町でキャンプ中のヴィッセル神戸協力のもと、サッカー日本代表の榎田修一選手と松本拓也コーチによるGK講習会が西原町陸上競技場で開催されました。町内のサッカーチーム(坂田FC、西原南FC、西原東FC)から集まった小学4~6年生の児童8名が参加しました。

児童たちは、ポジション取りやシュートの止め方などの基礎練習、ミニゲームを通じてプロの技術を熱心に学びました。最後に行われた榎田選手との「シュート対決」では、世界レベルの守備にこどもたちは果敢に挑みました。最もゴールを決めた児童には、榎田選手着用のグローブが贈られ、会場は大いに盛り上がりました。

榎田選手は「GKはチームを守る責任感のある素晴らしい仕事。何があってもゴールを守り、チームを支えてほしい」とエールを送りました。



◀シュート対決



◀榎田選手から指導を受ける児童▶

1月22日 西原クラブ女子、県大会で3年連続の頂点へ!

西原クラブ女子が「第48回沖縄県小学生バレーボール大会(りゅうぎんカップ)」で見事優勝を果たし、報告のため町役場を訪れました。

同クラブの優勝はこれで3年連続となり、大会史上初の快挙を成し遂げました。

キャプテンの野原穂夏さん(西原小学校6年)は「3連覇のプレッシャーを乗り越え、みんなで優勝できてうれしい」と喜びを語りました。

崎原町長は「この素晴らしい結果は、バレーのまちとしての誇りである。3連覇という重圧に打ち勝ち、日頃の鍛錬の成果を発揮した皆さんの努力に感動した」と激励しました。



1月26日 ピアノ全国大会で金賞に輝く

下地悠南子さん(西原中学校2年)と新垣玲花さん(西原中学校1年)が「全日本ピアノコンクール2025全国大会 連弾U15部門」で見事金賞に輝き、報告のため町役場を訪れました。

下地さんは「演奏直後はダメだと思ったが、聴いている方々に自分たちの音楽が伝わったので良かった」と話し、新垣さんは「今までで1番緊張したが、金賞をいただけて本当にうれしい」と喜びを語りました。

崎原町長は「誰もが圧倒される舞台上、緊張を乗り越えて金賞を勝ち取ったことは本当に素晴らしい。これからの活躍も大いに期待している」と激励しました。



下地悠南子さん 新垣玲花さん

1月28日 介護予防と健診のすすめ 西原町シルバー人材センター

シルバー人材センターが主催する「安全・適正就業講習会」で、西原町役場福祉部の保健師が講師として招かれ、会員の皆様を対象とした健康づくり講習会が開催されました。

健康管理の実践に関するミニ講演のほか、握力や片足立ち、5m歩行などの体力測定が行われました。運営には、沖縄リハビリテーション福祉学院の学生ボランティアの皆様にもご協力いただき、和やかな雰囲気の中での開催となりました。

参加者からは「自分の体力を客観的に知る良い機会になった」「ぜひ来年も実施してほしい」との声が寄せられ、自身の健康を振り返る有意義な時間となりました。



2月6日 沖縄県母子保健大会・大会長表彰を受賞

臨床心理士の仲本弘子さんが第59回沖縄県母子保健大会において、大会長表彰を受賞され、その報告のため町役場を訪れました。

この栄誉ある賞は、永年にわたり地域の母子保健事業に尽力し、県民の保健向上に貢献した個人や団体に贈られるものです。

仲本さんは、20年以上にわたり本町のこどもたちの発達支援に注力し、今なお西原町のために多大な尽力をされています。



2月7日 「なりたい自分」への一歩を学ぶ「ドリームスクール」

坂田小学校で、児童が将来の夢や職業について考えるキャリア教育イベント「ドリームスクール」が開催されました。当日は、保護者や学生を含む計35名もの多彩な講師陣が教室を訪れ、それぞれの専門分野や経験を語りました。

社会人講師の授業では、浦添総合病院のフライトナースの仲村和樹さんがドクターヘリでの活動や患者に寄り添う看護師の役割について語ったほか、元高校教師で現在は英語スクールを経営する武富誉子さんは、世界中の人とつながる喜びや仕事のやりがいを話し、最後は児童と一緒に英語の早口言葉に挑戦しました。バイオリニストの金城愛さんは沖縄初のプロオーケストラ設立に携わった経験を語りながら、「なりたい職業が身近になくても、諦めずに好きなことを深め、学びのチャンスを掴んでいけばきっと夢は叶う」とエールを送り、新聞記者の新垣玲央さんは、沖縄戦の取材や金色のハブを一面記事にした体験談を交え、日常の「驚き」や「疑問」、「好き」という気持ちを大切にすることが将来に繋がると熱心に伝えました。

あわせて、夢を追う身近な先輩である学生たちも登壇しました。琉球大学教育学部2年の照屋菜月さんは、進路に迷った経験を明かした上で、自分の「好き」を軸に優先順位をつけ、無理をせず自分のペースで大切なものを選び続けることの重要性を語りました。那覇高校3年の手登根奏奈さんは、看護学校への進学を控えた立場から、進学に向けた具体的な準備や生活習慣の大切さをアドバイスしました。児童たちは、多くの職業や生き方に触れ、自分たちの未来へ向けて大きな刺激を受けた1日となりました。



仲村和樹さん

武富誉子さん



金城愛さん

新垣玲央さん



照屋菜月さん

手登根奏奈さん